

【本稿について】

本資料は、2004年に雑誌『ISIS』へ寄稿した際の執筆元原稿をPDF化したものです。出版社での編集・調整を経る前の原稿であるため、実際の掲載内容とは一部表記が異なる場合があります。また、内容は執筆当時の情報に基づいています。

Choose Cruelty-Free Life

動物に意図的に傷つける虐待を行う人を私たちは異常な人、精神が病んだ人が行う恐ろしいこととして判断します。でも私たちのこの社会の仕組みの中で、どうぶつ達はもっと恐ろしい苦しみを味わい、殺されています。

そしてそれが経済の中で行われていること、ほとんどの人に知られていないこと、このところ、恐ろしい現実なのです。

でも知ることから変化は始まります。今まで知らなかった新しい選択肢を選ぶことができます。わたしたちが変わることでどうぶつ達の状況を変えることができます。

①毛皮

毛皮が流行しています。

毛皮は動物を殺して作られます。毛皮のために、生きている動物を殺してその皮を剥ぐのです。

きつね、ミンク、うさぎ、ヌートリア、そして犬や猫までも殺されています。中には生きたまま生皮をはがれるものもあります。通常は口と肛門から電流を流され、殺されます。欧米では動物愛護運動の高まりから、毛皮に対する規制が進み、また、毛皮を使わないブランド、ファッションデザイナー、デパートも出始めています。

欧米での規制を列挙します。

★ベルギー：

ベルギーでは、隣国のルクセンブルクと共同で、ハンドバッグなどに使われるアザラシやイヌ、ネコの毛皮輸入を禁止しています。

★オーストラリア：

犬、猫の毛皮の輸出入を法律で禁止することが決定しています。

★オーストリア：

1990年代にオーストリアの9つの行政区で次々と毛皮用 動物の飼育を法律で禁止しました。1998年6月最後の行政区でただ1つ残っていた毛皮用動物飼育場が閉鎖されました。

★オランダ：

1995年からきつね、1997年からチンチラの 飼育を禁止し、2008年4月1日までにそれらの飼育場を全廃するという法案が可決されています。ミンクについては、欧州委員会へプロポーザル「毛皮取得のために動物を飼育し、殺す行為を禁止する、オランダ政府は、動物を殺し毛皮をとる行為は正当化されない」を通知しています。10年間の猶予期間を設定し、段階的な廃止のためのこの法案が法律になるには、2つの議会で承認されなくてはなりません。これが決まれば全世界の1割を生産するミンク工場が閉鎖されることになります。

★イギリスおよびウェールズ(現在「グレートブリテンおよび北部アイルランド 連合王国」の一部)：

毛皮動物の飼育が禁止されています。

★ スコットランド：

毛皮動物用飼育場禁止法案:スコットランドでは1993年に最後の毛皮動物用飼育場が閉鎖されています。スコットランドには毛皮動物用飼 育場はありませんが、イギリスやウェールズから移転されるのを防ぐためにこの法案が提出されました。

デザイナー、メーカー、デパートにもこの流れが影響し始めています。イギリスでは大手有名デパートのハロッズが毛皮販売をしないことを公言しています。

最近では2004年9月、日本でも人気のブランド「ZARA」などを展開するスペインのアパレル大手インディテクス社は、「世界中のお客の懸念にこたえて、あらゆる毛皮製品の販売をやめる」と発表しました。

欧米の店舗では即日、アジアなど他の地域では順次中止する予定だそうです。日本においては、ZARAジャパンは「毛皮を使った商品は日本でも人気だったが、先週からすでに販売をやめている」そうです。

フェミニン&ロマンティックなデザインが人気のレベッカ・テイラーは、毛皮を使ったデザインはしていません。使う場合はフェイクファーのみを使っています。

一方、日本ではどうなっているかと言いますと、動物愛護の精神から自国の規制も自主的な販売取りやめありません。しいていえば、上述したZARAジャパンでしょうか。そういうブランドをどんどん購入していきたいです。でもワシントン条約で海外から日本国内への持込が禁止・規制されているものならあります。

一つは、ギリシャからの持込については、種によってネコ科の毛皮のコート持ち込み禁止、またはギリシャ政府発行の輸出許可書が必要です。もう一つは、インドからの持ち込みについては、ネコ科の動物の毛皮はインド国内で保護されており、輸出は禁止されています。

ほとんどの人は、毛皮がどうぶつを殺してつくられたものであるということが分からずに身につけています。どうぶつが生きているあいだじゅう、悲しみと苦しみの中にいて、殺されるときも恐怖と苦痛に満ちていると知っていたなら、ほとんどの人は毛皮は身につけないはずです。私たちは元来、そんなに他の生命の苦しみに鈍感でもないし、冷淡でもないからです。

毛皮は見てとても悲しいものです。私はフェイクで十分です。

きつねやミンク、そして犬や猫が自由に暮らしているのを見るほうが何倍も幸せです。

- ②動物実験
- ③ペットショップ
- ④動物園